

編集後記

*『人文論集』第六二号をお届けします。今年度も刊行に至るまでに多くの方からご助力を賜りました。ご支援いただいた皆様に御礼申し上げます。

*コロナ禍をはじめとするさまざまな事情からここ数年続けて編集委員長を務めてまいりましたが、来年度から大森信徳先生にバトンタッチすることになりました。一人の人間が長期間連続して委員長を務めるのはあまり好ましくないだろうとも考えておりましたので、無事交代することが決まり、ひそかに安堵しています。

*本誌の編集業務に従事してよかったと思うことが二つあります。一つは、退職教員の先生方から送られてくる論考をいち早く読む機会に恵まれたことです。本号にも寄稿されている先生方の論考を読むのは、自分にとって毎年の楽しみでした。それは大変豊かな読書体験で、書かれた文章越しに書き手の思考の世界が確かに広がっているこ

と、書くことを通してしか立ち現れない世界があること、そしてその世界は書き留めておかなければ消え去ってしまうものであるがゆえに、ひととはとにかく書かねばならないのだということを通じて教えられる貴重な機会でした。

*もう一つは、過去に刊行された本誌のバックナンバーなど、先人によって書かれた文章に触れることができた点です。なぜ昔書かれたものを読んだかといえ、毎年執筆を迫られる本誌編集後記に途中から書くことがなくなってきたからですが、過去の文章を読むことにはいくつもの発見がありました。たとえば前号の編集後記で引いた小林秀雄の言葉——「広くものを味う心が衰弱して」、「ただ自分の狭い心の姿を豊富な対象のなかに探し廻っているだけ」——は、いまの自分にあてはまる言葉にほかなりません。しばしば陥りがちな「ものを深く味わわず、表面だけを楽しむという傾向」からは一刻も早く脱し、「文章の与える印象を十分に享受する」、鑑賞の精神を身につ

けなくてはと気持ちを新たにした次第です。

(高岡記)

二〇二三年度編集委員 岩村健二郎、大森信徳、高岡佑介、武黒麻紀子、ヴァンサン・マニゴ

二〇二四年二月一〇日 印刷
二〇二四年二月二〇日 発行

非売品

編集者 高岡佑介

印刷所 (株) 敬文堂

発行所 早稲田大学法学会

東京都新宿区西早稲田一―六―一
〒169-8050 電話 三三二〇三三四―四一
振替口座 東京 九七〇九二二番

<http://dspace.wul.waseda.ac.jp/dspace/handle/2065/5246>